

評価規準の作成

職業・家庭

中学部職業分野 1段階の内容「B 情報機器の活用」を取り上げて

【参考資料】

- ◆「各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨（小学校及び特別支援学校小学部並びに中学校及び特別支援学校中学部）」⇒★

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/nc/_icsFiles/afieldfile/2019/04/09/1415196_4_1_2.pdf



（小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）

平成31年3月29日 別紙4）

- ◆「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料（令和2年4月）」⇒☆

https://www.mext.go.jp/content/20200515-mxt_tokubetu01-1386427.pdf



※「特別支援学校小学部・中学部学習評価参考資料」等からの引用文の一部を
斜体・太字・赤字で強調して示している部分は、山形県教育センターによるものです。

#

中学部職業分野 1段階の内容「B 情報機器の活用」

	すること。	んて、工夫すること。
	⑤ 職業生活に必要な健康管理について気付くこと。	⑤ 職業生活に必要な健康
B 情報機器の活用	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	職業生活や社会生活で情報機器を扱うことに関
	ア コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。	ア コンピュータ等の方
	イ コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。	イ コンピュータ等のとや自分の考えを表
	実際的な学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	実際的な学習活動を通して
C 産業現場等に	ア 職業や進路に関わることについて関心をもった	ア 職業や進路に関わ

評価規準の作成手順

1 「評価の観点及びその趣旨」(★参照)の確認

※ 各教科等の目標を踏まえて作成されている



2 「段階別の評価の観 points の趣旨」(☆参照)の確認

※ 段階の目標を踏まえて作成されている



3 「内容のまとめりととの評価規準」の作成

① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりととの評価規準」を作成する

評価規準の作成手順 1

～評価の観点及びその趣旨の確認～

職業・家庭の目標

知識及び技能	生活や職業に対する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を 身に付けるようにする。
思考力・判断力・表現力等	将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を 養う。
学びに向かう力・人間性等	よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする 実践的な態度を養う。

評価の観点及びその趣旨

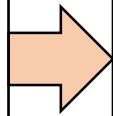
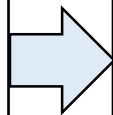
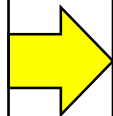
知識・技能	将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を 身に付けている。
思考・判断・表現	将来の家庭生活や職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を 身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとしていたりして、 実践しようとしている。

評価規準の作成手順 2

～「段階別の評価の観点の趣旨」の確認～

1段階 職業分野の目標

知識及び技能	職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。
思考力・判断力・表現力等	将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。
学びに向かう力・人間性等	将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。



評価の観点及びその趣旨

知識・技能	職業について関心をもっているとともに、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けている。
思考・判断・表現	将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとしている。

評価規準の作成手順 3 ～「内容のまとまりごとの評価規準」の作成～

①「内容のまとまり」と「評価の観点」との関係の確認

B 情報機器の活用

職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることなどに関わる学習活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を知ること。

イ コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に伝えること。

(特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 P.180)

(下線)…知識及び技能に関する内容

(長波線)…思考力, 判断力, 表現力等に関する内容

評価規準の作成手順 3 ～「内容のまとまりごとの評価規準」の作成～

②【観点ごとのポイント】を踏まえ、 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成

【観点ごとのポイント】

「知識・技能」のポイント

- ここでの評価規準は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項(ア)について(職業分野「B 情報機器の活用」, 「C 産業現場等における実習」のみア), その **文末を教科の観点の趣旨に基づき, 「～を知っている。」**などとして作成する。

評価規準の作成手順 3 ～「内容のまとまりごとの評価規準」の作成～

②【観点ごとのポイント】を踏まえ、
「内容のまとまりごとの評価規準」を作成

【観点ごとのポイント】

「思考・判断・表現」のポイント

- ここでの評価規準は、基本的には当該項目で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項(イ)について(職業分野「B 情報機器の活用」, 「C 産業現場等における実習」のみイ), その **文末を教科の観点の趣旨に基づき, 「～について考えている。」**などとして作成する。

評価規準の作成手順 3 ～「内容のまとまりごとの評価規準」の作成～

②【観点ごとのポイント】を踏まえ、 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成

【観点ごとのポイント】

「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

- この観点は、**粘り強さ**(知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面)，**自らの学習の調整**(粘り強い取組みの中で自らの学習を調整しようとする側面)に加え，これらの学びの経験を通して涵養された，**生活を工夫し考えようとする態度について評価する。**
- ここでの評価規準は，基本的には，教科の観点の趣旨に基づき，当該項目の指導事項(ア),(イ)(職業分野「B 情報機器の活用」，「C 産業現場等における実習」のみア，イ)に示された資質・能力を育成する学習活動を踏まえて，**文末を「～しようとしている」として作成する。**

評価規準の作成手順 3 ～「内容のまとまりごとの評価規準」の作成～

②【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成

【内容のまとまりごとの評価規準(例)】

内 容		内容のまとまりごとの評価規準	
知識・技能	ア コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を 知ること 。	知識・技能	コンピュータ等の情報機器の初歩的な操作の仕方を 知っている 。
思考力・判断力・表現力等	イ コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に 伝えること 。	思考・判断・表現	コンピュータ等の情報機器に触れ、体験したことなどを他者に 伝えている 。
学びに向かう力・人間性等	※職業・家庭科の目標(3)及び1段階の職業分野の目標ウ参考(3) よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする 実践的な態度を養う 。 ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を 工夫しようとする態度を養う 。	主体的に学習に取り組む態度	職業生活で使われるコンピュータ等の情報機器に触れることなどに関わる学習活動を通して、よりよい将来の職業生活の実現に向けて、生活を 工夫し考えようとしたりして、実践しようとしている 。 ※ 必要に応じて教科の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。 ➡次のスライド参照

評価規準の作成手順 3

～「内容のまとめりごとの評価規準」の作成～

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準について

当該単元で育成する資質・能力と生徒の発達段階に応じて作成する。特に、生徒自ら学習を調整する姿を見取ることが困難な場合もあり得るため、例えば、粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価するため、**特に、粘り強さを発揮してほしい内容、自らの学習の調整が必要となる具体的な学習活動を考えて授業を構想し、評価規準を設定すること**が大切である。そのうえで、生徒が自分なりに様々な工夫を行おうとしているかを評価することや、他の生徒との対話を通して自らの考えを修正したり、立場を明確にして話していたりする点を評価するなど、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性を高められるような工夫が求められる。